

# 国語

## I 教科、種目の観点

資料作成に当たっては、共通観点の他に、学習指導要領（平成29年3月）に示された各教科の目標や内容等に即して検討し、教科独自の観点を定めた。

| 1 教育基本法の理念や長崎県教育方針の趣旨・内容を踏まえて、豊かな人間性の育成を図る上での特長 |     |                                                                                |
|-------------------------------------------------|-----|--------------------------------------------------------------------------------|
| 共通<br>観点                                        | (1) | 教科の特質に応じて、「教育の目的」及び「教育の目標」の達成に資する内容、構成となっているか。                                 |
|                                                 | (2) | ふるさと長崎の伝統・文化や歴史、自然について理解を深める学習に生かせる題材が扱われているか。                                 |
| 2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長           |     |                                                                                |
| 共通<br>観点                                        | (1) | 基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されているか。                                         |
|                                                 | (2) | 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されているか。                      |
|                                                 | (3) | 主体的に学習に取り組む態度を身に付けることができるよう工夫されているか。                                           |
| 教科<br>独自<br>観点                                  | (4) | 各領域において、言語活動を通して資質・能力を育成できるような内容・構成になっているか。<br>A 話すこと・聞くこと<br>B 書くこと<br>C 読むこと |
|                                                 | (5) | 我が国の言語文化に関する指導の充実を図ることができるよう工夫されているか。                                          |
|                                                 | (6) | 読書活動に結び付くよう工夫されているか。                                                           |
| 3 学習効果や使いやすさ、見やすさ（ユニバーサルデザイン）等の観点からの表記・表現や体裁の特長 |     |                                                                                |
| 共通<br>観点                                        | (1) | 文章は、分かりやすく、質・量ともに適切な記述となっているか。                                                 |
|                                                 | (2) | 写真、挿絵、図表などは、学習意欲を高めるとともに、学習内容との関連や学習効果に十分配慮されているか。                             |
|                                                 | (3) | レイアウトや色彩、文字の大きさ、挿絵の活用、紙質、製本等については、適切に配慮されているか。                                 |

## II 選定資料利用上の留意点

- 資料の作成に当たっては、設定した観点ごとに、特に目立った事柄を取り上げること。
- 利用に際しては、全体を通して総合的に判断し、各教科書の特色をとらえるとともに、地域の実態、その他の条件を考慮して、適正な採択のための資料とすること。
- 前記の観点と次表の観点、具体項目とは、対応させて読み取ること。

| 観点                                              |                                                           | 発行者           | 東 書                                                                                                   | 三省堂                                                                                            |
|-------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 教育基本法の理念や長崎県教育方針の趣旨・内容を踏まえて、豊かな人間性の育成を図る上での特長 |                                                           |               |                                                                                                       |                                                                                                |
| (1)                                             | 教科の特質に応じて、「教育の目的」及び「教育の目標」の達成に資する内容、構成となっているか。            |               | 情報社会、多様性、地球環境、防災などの様々な課題に関する教材を取り上げることで、言葉の力を身に付け、それらを自分や社会の課題として解決していく態度を育成することができるよう配慮されている。        | SDGs、異文化理解、金融・消費者教育、防災などに関する教材を取り上げることで、幅広い視野を身に付け、自ら問いをもち、課題を解決する態度を育成することができるよう配慮されている。      |
| (2)                                             | ふるさと長崎の伝統・文化や歴史、自然について理解を深める学習に生かせる題材が扱われているか。            |               | 1年の言語教材で「方言と共通語」を扱ったり、1年「平和のボタン」で原爆に向き合う高校生の活動を取り上げたりすることで、ふるさと長崎の伝統・文化や歴史について理解を深める学習に生かせるよう配慮されている。 | 2年「壁に残された伝言」では原爆に関する内容が取り上げられている外、地域の魅力を伝える情報誌を作る言語活動を仕組むことで、ふるさと長崎への理解を深める学習に生かせるよう配慮されている。   |
| 2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長           |                                                           |               |                                                                                                       |                                                                                                |
| (1)                                             | 基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されているか。                    |               | 全学年の「日本語探検」ではストーリー仕立ての文章、「文法の窓」ではゲーム仕立ての内容の後に、詳しい説明を入れることで、当事者意識を持ちながら知識・技能を習得できるよう工夫されている。           | 「文法の窓」でイラストや平易な問題で興味をもたせた後、「文法のまとめ」で詳しい説明や豊富な練習問題を設けることで、自身の理解度を確認しながら、知識・技能を習得できるよう工夫されている。   |
| (2)                                             | 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されているか。 |               | 「読む」で習得した資質・能力を活用して、「話す・聞く」「書く」に関連付けた学習課題の解決を図ることで、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。                  | 「読み方を学ぼう」や、「学習のポイント」、「思考の方法」など、習得した知識・技能を活用して「学び方」を学ぶことで、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。     |
| (3)                                             | 主体的に学習に取り組む態度を身に付けることができるよう工夫されているか。                      |               | 各教材の冒頭に、多様な個性をもったキャラクターによる生徒目線の「問いかけ」を示すことで、見通しをもって主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。                        | 全学年に「グループディスカッション」を取り入れ、対話や考えの共有などの協働的な言語活動の場を適切に設けることで、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。            |
| (4)                                             | 各領域において、言語活動を通して資質・能力を育成できるような内容・構成になっているか。               | (A) 話すこと・聞くこと | 各言語活動で育成する資質・能力に対応する目標を、各教材冒頭に明示するとともに、「振り返り」の活動を設定することで、日常生活・社会生活の様々な場面で活用できる話す・聞く能力を育成できるよう工夫されている。 | 様々な言語活動について手順やポイント、例を明示し、学習のゴールイメージを明らかにすることで、目的や場面に応じて適切に話す・聞く・話し合う能力を育成できるよう工夫されている。         |
|                                                 |                                                           | (B) 書くこと      | 各学年、「聞く」「話す」「話し合う」の順序で単元を構成しており、単元末には要点をまとめた「言葉の力」の欄を設けて、話し合いを振り返ることで、伝え合う力の向上が図れるよう工夫されている。          | 各学年、学年初めにグループディスカッション、学年末に「話すこと・聞くこと」「書くこと」の総合的な言語活動を配列することで、他者と関わり合いながら伝え合う力の向上が図れるよう工夫されている。 |
|                                                 |                                                           | (C) 読むこと      | 自己表現のポイントを「情報と論理の学び」で考え、書くこと教材で実践し、「言葉の力」を用いながら振り返るという学習の流れにすることで、書く能力を身に付けることができるよう工夫されている。          | 現代の課題に関して、複数の情報を比較、関連付けながら考えをまとめさせたり、情報を整理する方法として「思考の方法」を提示したりすることで、書く能力を身に付けることができるよう工夫されている。 |
|                                                 |                                                           |               | 「引用の仕方を正しく理解して書くこと」や、「複数の条件に従って書くこと」といった言語活動を各学年に設定することで、書く能力を身に付けることができるよう工夫されている。                   | 書く必要性・必然性のある、生活に即した題材を言語活動の対象として取り上げることで、目的意識をもって学習に取り組み、書く能力を身に付けることができるよう工夫されている。            |
| (5)                                             | 我が国の言語文化に関する指導の充実を図ることができるよう工夫されているか。                     |               | 「読むこと」の学習で身に付けた力を、「学びを支える言葉の力」で深め、前後に置いた教材「話すこと・聞くこと」「書くこと」の言語活動に関連付けることで、読む能力を高められるよう工夫されている。        | ものの見方を広げ自分の考えを深めるために「学びの道しるべ」で対話を重視した言語活動を設定し、「読み方を学ぼう」により読みの手立てを習得させることで、読む能力を高められるよう工夫されている。 |
| (6)                                             | 読書活動に結び付くよう工夫されているか。                                      |               | 説明的な文章では、幅広いテーマを扱い、「思考のヒント」など学習に役立つ資料を掲載し、必要に応じて活用できるようにすることで、学習活動を補助し、読む能力を高められるよう工夫されている。           | 説明的な文章では、多岐にわたる題材を配列するとともに、文章構成や論理展開が明快な教材を多く取り上げることで、論理的思考力や読む能力を高められるよう工夫されている。              |
|                                                 |                                                           |               | 「日本語探検」の教材は、ストーリー仕立ての導入ページや要点をまとめた解説ページで構成することで、言葉の由来や変化について理解し、言語能力を育成できるよう配慮されている。                  | 「言葉の特徴や使い方」に関する取り立て教材として「言葉発見」を設定し、「確かめよう」で確認する機会を設けることで、日常の言語生活を豊かにし、言語能力を育成できるよう配慮されている。     |
| (6)                                             | 読書活動に結び付くよう工夫されているか。                                      |               | 1年でポップの作成、2年でビブリオバトル、3年で読書会やベストブックを編むといった多様な読書活動を設定することで、進んで読書をしようとする態度を育成することができるよう工夫されている。          | 1年で心に残った一文の紹介、2年でビブリオバトル、3年でブックトークと、読書と話す活動とを結び付けることで、進んで読書をしようとする態度を育成することができるよう工夫されている。      |
|                                                 |                                                           |               | 読書経験を培う多様な教材があり、教科書全体で多数の図書を紹介したり、著名人による図書紹介コラムを設けたりすることで、興味をもって読書に取り組むことができるよう工夫されている。               | 「読書の広場」の「小さな図書館」では、多数の図書を紹介し、巻末資料の中に伝統芸能の作品を大きく取り上げることで、興味をもって読書に取り組むことができるよう工夫されている。          |
| 3 学習効果や使いやすさ、見やすさ（ユニバーサルデザイン）等の観点からの表記・表現や体裁の特長 |                                                           |               |                                                                                                       |                                                                                                |
| (1)                                             | 文章は、分かりやすく、質・量ともに適切な記述となっているか。                            |               | 重要な部分が認識しやすいように表現や体裁を整えた文章で記述することで、学習内容を理解しやすくなるよう工夫されている。                                            | 発達段階や学習内容に即した文章量で記述することで、学習内容を理解しやすくなるよう工夫されている。                                               |
| (2)                                             | 写真、挿絵、図表などは、学習意欲を高めるとともに、学習内容との関連や学習効果に十分配慮されているか。        |               | 名前を付けた生徒や、学習のヒントを示すキャラクターが登場することで、生徒の学習への興味・関心を高めるとともに、理解を助けることができるよう配慮されている。                         | 情報を扱う学習では、いずれの学年においても漫画を使って学習の要点を示すことで、生徒の学習への興味・関心を高めるとともに、理解を助けることができるよう配慮されている。             |
| (3)                                             | レイアウトや色彩、文字の大きさ、挿絵の活用、紙質、製本等については、適切に配慮されているか。            |               | 奇数ページに領域や内容を示す色を用いたり、読書のページをドット柄で縁取ったりすることで、どの領域、内容について中心的に学習する教材なのか分かりやすいように配慮されている。                 | ページの端を色分けし、「読むこと」領域とその他の領域、資料編とを差別化することで、どの領域、内容について中心的に学習する教材なのか分かりやすいように配慮されている。             |

| 観 点                                             |                                                           | 発 行 者         | 教 出                                                                                             | 光 村                                                                                              |
|-------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 教育基本法の理念や長崎県教育方針の趣旨・内容を踏まえて、豊かな人間性の育成を図る上での特長 |                                                           |               |                                                                                                 |                                                                                                  |
| (1)                                             | 教科の特質に応じて、「教育の目的」及び「教育の目標」の達成に資する内容、構成となっているか。            |               | SDGs、情報・メディアに関する教材を全学年に系統的に配置することで、様々な課題に向き合い、多様性を受け入れて他者と協働しながら解決する能力を育成することができるよう配慮されている。     | SDGs、多様性、情報、防災などに関する教材を取り上げることで、様々な課題を解決するための言葉の力を身に付け、主体的に社会の形成に参画する態度を育成することができるよう配慮されている。     |
| (2)                                             | ふるさと長崎の伝統・文化や歴史、自然について理解を深める学習に生かせる題材が扱われているか。            |               | 3年では読書の教材として、「薔薇のボタン」「語り継ぐもの」といった原爆を語り継ぐ思いが語られる文章を紹介することで、ふるさと長崎への理解を深める学習に結びつくよう配慮されている。       | 3年では原爆を題材とした詩「挨拶」や資料「郷土ゆかりの作家・作品」を取り上げることで、ふるさと長崎への関心を高め、理解を深める学習に生かすことができるよう配慮されている。            |
| 2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長           |                                                           |               |                                                                                                 |                                                                                                  |
| (1)                                             | 基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されているか。                    |               | 「文法の小窓」や「言葉の小窓」において、日常生活を題材とし、「～しましょう」など語りかける言葉を用いることで、当事者意識をもちながら知識・技能を習得できるように工夫されている。        | 「文法への扉」で学習者へ疑問をもたせた後、「文法」で詳しい説明や練習問題を設けることで、自身の理解度を確認しながら、知識・技能を習得できるよう工夫されている。                  |
| (2)                                             | 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されているか。 |               | 「学びのチャレンジ」として、習得した知識・技能を活用して多様な課題に対する自分の考えを書く問題に取り組むことで、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。       | 学習のポイント「学びのカギ」や巻末「学びのカギ一覧」を参照しながら、習得した知識・技能を問題解決学習に活用することで、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。     |
| (3)                                             | 主体的に学習に取り組む態度を身に付けることができるよう工夫されているか。                      |               | 各教材に「学びナビ」を設け、学習の見通しを明確にし、学習前に内容の重点や観点を把握できるようにすることで、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。                | 各学年の巻頭に、1年間の学習内容と身に付ける資質・能力を俯瞰できる「学習の見通しをもと」を設け、既習事項を学びに生かせるようにすることで、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。 |
| (4)                                             | 各領域において、言語活動を通して資質・能力を育成することができるような内容・構成になっているか。          | (A) 話すこと・聞くこと | 単元の導入に「学びナビ」を設け、言語活動に必要な思考方法を図解によって可視化することで、課題解決のための対話力、コミュニケーション力を見通しをもって身に付けることができるよう工夫されている。 | スピーチや話し合い活動などで使用される話型や表現を「言の葉ポケット」として提示することで、自分が伝えたい内容に適した表現を探す支援を行い、日常の言語生活の質を高められるよう工夫されている。   |
|                                                 |                                                           | (B) 書くこと      | 教材の始めに「学びナビ」を設け、活用すべき能力をあらかじめ明確にするとともに、思考や情報の整理方法について記載することで、言語活動を通して書く能力を身に付けることができるよう工夫されている。 | 教材冒頭に見開きで「学びのカギ」を示し、習得すべき資質・能力と学習の見通しを把握できるようにすることで、主体的に課題解決に向かい、言語活動を通して書く能力を身に付けられるよう工夫されている。  |
|                                                 |                                                           | (C) 読むこと      | 「学びナビ」において、教材文の読みの観点を明確化・焦点化するとともに、「ヒント」の部分で、考え方や文章の読み方のポイントを押さえることで、読む能力を高められるよう工夫されている。       | 「学びへの扉」を通して言語活動に焦点化した課題解決を図ったり、学習のポイント「学びのカギ」を巻末「学びのカギ一覧」から必要に応じて活用したりすることで、読む能力を高められるよう工夫されている。 |
| (5)                                             | 我が国の言語文化に関する指導の充実を図ることができるよう工夫されているか。                     |               | 昔話を導入に用いて古典を学ぶ意義を示すとともに、本文脇に注を添えた教材や関連章段を掲載することで、興味・関心を高め、古人のものの見方・考え方を知ることができるよう工夫されている。       | 本文脇に注を添えた教材を用いたり、多くの名作を掲載したりすることで、興味・関心を高め、古人の見方・考え方を知ることができるよう工夫されている。                          |
| (6)                                             | 読書活動に結び付くよう工夫されているか。                                      |               | 本の帯やレポートの作成等、発達段階に応じた読書活動を設定することで、進んで読書をしようとする態度を育成するとともに、学校図書館を情報活用場として利用するための工夫がなされている。       | 各学年において、多様な読書活動や読書の計画・記録、振り返りの仕方等を紹介することで、進んで読書に取り組む態度を育成するとともに、卒業後も読書に親しむことができるよう工夫がなされている。     |
| 3 学習効果や使いやすさ、見やすさ（ユニバーサルデザイン）等の観点からの表記・表現や体裁の特長 |                                                           |               |                                                                                                 |                                                                                                  |
| (1)                                             | 文章は、分かりやすく、質・量ともに適切な記述となっているか。                            |               | 文章の中に、日常で用いる言葉など、親しみをもてる例を豊富に掲載することで、学習内容を理解しやすくなるよう工夫されている。                                    | 日常の言語生活から題材を取り上げた文章を数多く掲載することで、学習内容を理解しやすくなるよう工夫されている。                                           |
| (2)                                             | 写真、挿絵、図表などは、学習意欲を高めるとともに、学習内容との関連や学習効果に十分配慮されているか。        |               | ガイド役のキャラクターや現代的なタッチの挿絵を取り入れ、明るい色調の図表や豊富な写真を用いることで、親しみやすさを感じ、視覚的にも理解を助けることができるよう配慮されている。         | 写真や挿絵、図表を、情報として読み取るもの、理解を助けるもの、イメージを広げるものなど、目的に応じて取り入れることで、学習内容と関連して効果的に活用できるよう配慮されている。          |
| (3)                                             | レイアウトや色彩、文字の大きさ、挿絵の活用、紙質、製本等については、適切に配慮されているか。            |               | 教材の最初のページに領域や内容を示すマークを掲載したり、ページの縁を色分けしたりすることで、どの領域、内容について中心的に学習する教材なのかが分かりやすいように配慮されている。        | 各領域や資料編によって、ページの端の色を分けたり模様を変えたりすることで、どの領域、内容について中心的に学習する教材なのかが分かりやすいように配慮されている。                  |